

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077200147		
法人名	医療社団法人 桜珠会		
事業所名	グループホーム 可也 桜の里		
所在地 (電話番号)	福岡県糸島郡志摩町大字師吉901-3 (電話)092-327-2969		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年9月7日	評価確定日	平成21年10月16日

【情報提供票より】(平成21年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤14人, 非常勤5人, 常勤換算17.3	人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階	~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円 ~	その他の経費(月額)	48,000円 ~
敷金	有(252,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (8月31日現在)

利用者人数	16 名	男性 7 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.7 歳	最低 59 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団桜珠会可也病院/はんだ歯科医院/まつお歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くからの文献や神話にもその名が刻まれている可也山(別名 糸島富士・筑紫富士)の麓に、グループホーム「可也 桜の里」は位置しており、緑豊かな自然と、のどかな田園風景が広がる、恵まれた周辺環境を有している。地域の方々や関係者へ、認知症やグループホームの理解を育みながら、今年開設5年目を迎えている。社会福祉協議会や地域の事業者との充実したネットワークが構築されており、入居者とともに相互交流が育まれている。詳細で丁寧なアセスメントにより入居者の全体像の把握に努め、その人らしい暮らしを支えるべく、個別性ある介護計画が作成されており、入居者の方々の豊かな表情からは、その実践に努めていることを窺い知ることができる。事業所独自の行事にも、少しずつ地域や家族の参加が増えてきており、今後は地域福祉の牽引役として更なる充実が期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題として、家族への報告についての指摘があり、家族会の充実や職員の異動についても報告に努めるなどの取り組みがなされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価作成により、日々のケアの確認の機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議には、入居者・家族・地域代表・民生委員・地域包括支援センター等の参加がある。状況報告を行い、意見交換や助言を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 年3回の家族会(行事参加型も含む)が開催されており、夏祭り等を通じて家族同士の親交も深まってきた。家族が意見を言いにくいという事を理解しており、要望・意見の段階での表出となるようコミュニケーションの機会を大切にしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の小規模多機能型施設等の他事業所との交流を育てている。事業所にて開催されている「ミニ夏祭り」「感謝祭」にも、少しずつ参加が増えてきており、地域行事・活動への参加や、独居高齢者の方々への声かけにも取り組んでいる。今後は小・中学校の体験学習やボランティアの受け入れを予定している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を掲げている。職員全員の話し合いによって作られている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は朝礼時に唱和し、会議等において理念を基に話し合いが行われている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	近隣の小規模多機能型施設等の他事業所との交流を育んでいる。事業所にて開催されている「ミニ夏祭り」「感謝祭」にも、少しずつ参加が増えてきており、地域行事・活動への参加や、独居高齢者の方々への声かけにも取り組んでいる。今後は小・中学校の体験学習やボランティアの受け入れを予定している。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価の結果については、運営推進会議や全体会議にて報告を行い、検討している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議には、入居者・家族・地域代表・民生委員・地域包括支援センター等の参加がある。状況報告を行い、意見交換や助言を得ている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 可也 桜の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	居宅介護支援事業所の連絡会議や災害ネットワーク等を通じて、行政との連携が図られている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、資料の準備や研修への参加を行い、必要となった場合に活用できるように、取り組んでいる。また地域や家族への情報発信も行っている。今後は職員全員の知識を更に深めるよう、学ぶ機会の確保に努めていきたいと考えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	3～4ヶ月に1回、事業所便りを発行している。昨年評価以降、献立についても毎月送付するようになっている。家族との密な連絡に努めており、積極的に情報提供を行なっている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	年3回の家族会(行事参加型も含む)が開催されており、夏祭り等を通じて家族同士の親交も深まってきた。家族が意見を言いにくいという事を理解しており、要望・意見の段階での表出となるようコミュニケーションの機会を大切にしている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員が退職する場合は入居者・家族に説明し、時間をかけて引き継ぎを行なっている。新人職員については「桜の里便り」でも紹介している。働きながら学んでいる職員もあり、スキルアップや自己実現のためには離職が止むを得ない場合もあり、入居者への影響が最小限となるよう、引き継ぎ等に充分配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。法人としての採用となり、それぞれの経験を活かし、また資格取得等への支援も行われている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 可也 桜の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	理念・方針の中で、入居者の尊厳について明記しており、日々のケアの礎となっている。身体拘束等についても勉強会を行い、精神的な拘束や無意識の拘束等についても認識し、意識しながら日々のケアに取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	限られた人員配置の中で、法人研修や外部研修に可能な限り参加し、職員間で共有が図られている。今後は母体法人の協力を得て、内部研修の充実につなげていきたいと考えている。今後の充実に期待したい。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会だけでなく、様々なネットワークとの交流があり、連携や入居者も含めた相互訪問等が行なわれている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族への訪問、ホームの見学を行ないながら、馴染みの関係づくりとともに情報収集を行い、安心して入居できるように柔軟に対応している。入居して1ヶ月間は慣れてもらうことに重点をおき、その環境づくりを大切にしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の人生経験からの教え(生活の知恵・昔の習慣・教訓等)から学ぶことも多く、またその場面づくりにも努めている。家事や掃除、野菜作りなどを共に行い、同じ時間を共有する中で、信頼関係の構築に努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 可也 桜の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	一部にセンター方式を活用しながら、詳細で丁寧なアセスメントが行なわれている。生活暦や職歴、戦争体験等についても記されており、本人の全体像の把握に努め、職員間で共有が図られている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を大切にしながら、担当者会議にて話し合いを行い、入居者一人ひとりの担当者による計画が作成され、ケアマネージャーによる統括がなされている。個別・具体的な計画が作成されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	1ヶ月ごとにモニタリングを実施し、3ヶ月に1回の見直しをおこなっている。状況の変化等がある場合には、その都度見直しを行なっている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	近接している母体法人との連携により、デイサービスを活用することもある。またリハビリテーション施設の職員による、講習を受けることもできる。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向による、かかりつけ医を大切にしている。母体である医療法人も近く、認知症専門医も勤務している。また日々の暮らしの中で、介護職員による「気づき」により、早期の状況の変化に対応できることもある。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 可也 桜の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について指針を示し、家族の同意を得ている。本人・家族の意向を大切にしながら、職員・医師・看護職等との関係者間の話し合いを重ねている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	理念や方針の中でも、入居者の尊厳や言葉使いについて示しており、理念の共有・実践がプライバシーの確保にも繋がっている。個人情報の保管・管理についても、取り扱いの配慮に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の生活習慣やライフスタイル等にあわせて、柔軟な対応が行われている。その日その時の入居者の希望に、できる限りそえるよう支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	一人ひとりの希望や能力を把握し、調理準備(献立書き・野菜の皮むき・台拭き等)や、ご飯をついたり料理を盛り付けたり、また後片付けも職員と共に行なっている。毎月1回は入居者とともにおやつ作りを楽しんでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	毎日入浴の準備をしている。一人ひとりの生活習慣や希望を大切にしながら、個別に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 可也 桜の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の希望や状態を把握し、食事の準備や後片付け、野菜作りなどの役割づくりや、ドライブ・買い物等の外出の機会により、気分転換となるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候や入居者の体調にあわせて、日常的に散歩に出掛けている。買い物やドライブ、外食等、入居者の希望にそった支援に努めている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は鍵をかけないケアを実践している。見守りの徹底や行動傾向の把握により、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	母体法人との連携により、年2回の避難訓練を実施している。志摩地区の「災害支援ネットワーク」に加入し、災害時の連携体制の構築に努めている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立・食材は、業者に委託しており、カロリー量やバランスに配慮されたものとなっている。食事・水分摂取量を記録し、健康管理につなげている。母体法人の栄養士の協力も得られる環境にある。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 可也 桜の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	可也山を臨む廊下は日当たりも良く、談話コーナーにはソファが設けられており、それぞれの場所でくつろいでいる。周囲の田園風景や、四季折々の彩りを見せる可也山を眺めることができる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	十分な広さを持つ各居室は、障子調の大きな引き戸となっており、明るい空間となっている。トイレ・ミニキッチン・クローゼットが設置されている部屋もあり、使い慣れた家具などが持ち込まれている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			